

工 事 監 査

監査対象 土木工事 1 工事、建築工事 1 工事、設備工事 1 工事

監査期間 令和6年9月30日～令和7年3月4日

工事監査では、委託契約に基づき外部機関から派遣された3人の技術士により、施工中の建設工事を対象に、その計画、設計、積算、施工等が適正かつ効率的に行われているか、また、関係法令等に則り行われているか等について関係書類を調査するとともに、施工現場の調査も行いました。

なお、監査対象とした工事は次のとおりです。

【土木工事】

令和5年度 環ご第1号 一般廃棄物最終処分場埋立地等造成工事

【建築工事】

令和6年度 子子未第1号 清水高部東小学校児童クラブ建築工事

【設備工事】

令和4年度 危工第1号 静岡市同報系防災行政無線デジタル化整備工事

監査の結果、1件の指摘を行いました。
指摘事項は以下のとおりです。



★指摘事項【令和5年度 環ご第1号 一般廃棄物最終処分場埋立地等造成工事】

・墜落による労働者の危険防止策の未措置について

労働安全衛生規則（昭和47年労働省令第32号）第519条第1項によると、「事業者は、高さが二メートル以上の作業床の端、開口部等で墜落により労働者に危険を及ぼすおそれのある箇所には、囲い、手すり、覆い等（以下この条において「囲い等」という。）を設けなければならない。」とされており、同条第2項によると、「事業者は、前項の規定により、囲い等を設けることが著しく困難なとき又は作業の必要上臨時に囲い等を取りはずすときは、防網を張り、労働者に要求性能墜落制止用器具を使用させる等墜落による労働者の危険を防止するための措置を講じなければならない。」とされています。

しかし、浸出水処理施設用地の「鉄筋挿入工引抜試験（受入試験）」の記録写真の状況を確認したところ、地上約35mの高さの法面の小段上の作業であるにもかかわらず、労働者に要求性能墜落制止用器具を使用させる等墜落による労働者の危険を防止するための措置を講じていませんでした。